

JCS NEWS

第13回

チェロの日 Report

いつも
真ん中に
チェロ

CONTENTS

第13回チェロの日開催報告	2 - 4
マスタークラス開催報告	4 - 5
チェロ・サロン開催報告 アウトリーチ実施報告	6
Cellist's update	7
メンバーズ 事務局からのお知らせ 特別公演のご案内	8

Antonio Meneses

マスタークラス 開催報告



チェロ・サロン

開催報告



チェロの日

Report



2024年1月6日(土)・7日(日) サントリーホール プルーローズ
Photo: ©Takashi Fujimoto

13回目を迎える「チェロの日」は、コロナ禍前の形態に完全に戻り、演奏会だけではなく、チェロゼミナールや懇親会も含め、無事2日間の開催を実現することができました。「チェリストの集い」には、54名の会員の方にご参加いただき、コンサートには、両日を合わせ約400名のお客様にお越しいただきました。

今年のキヤッチフレーズの「いつも 真ん中にも常にチェロがあることと思います。そして、今年も無事に「チェロの日」が開催できましたこと、参加者の皆様、ご来場の皆様、関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。

チェロと仲良くなるコンサート

第1部は、チェロの日の企画担当理事でもある菊地知也さんと、クロマティックハーモニカ奏者の和谷泰扶さんの演奏でした。菊地さんは東京藝術大学を卒業され、第60回日本音楽コンクール第1位、併せて増沢賞、特別賞受賞。第4回日本室内楽コンクール第1位、併せて東京都知事賞受賞。第1回全日本ビバホールチェロコンクール第1位等、多数受賞。霧島国際音楽祭など多くの音楽祭に参加され、室内楽活動やソリストとしても活躍されています。また、東京藝術大学、桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師として後進の指導にもあたり、現在、日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・チェリストとして活躍されています。今回菊地さんは、和谷さんとベートーヴェンの《クラリネットとファゴットの為の二重奏曲 WoO27》より第1番第1楽章、山田耕作（荒尾岳児編曲）の《待ちぼうけ》、ピアソラ（Gottstein 編曲）の《5つのタンゴ》より3曲と、様々なプログラムを演奏いただきました。なかなか演奏を聴く機会が少ないクロマティックハーモニカとのデュオですが、チェロとの相性は素晴らしく、どこか懐かしさも感じる響きで会場をあたたくく包み込んだことと思います。

第2部は、笹沼樹さんと、ギターリストの

秋田勇魚さんの演奏でした。笹沼さんは、桐朋学園大学ソリストディプロマコース修了、並びに学習院大学文学部卒業。桐朋学園大学大学院修了のち、現在エコーノルマル音楽院特待生として在籍中です。また、ミュンヘン国際コンクール、NYの Young Concert Artists International Audition、日本音楽コンクールなどに多数優勝や入賞され、現在は、東京交響楽団客演首席奏者として活躍されています。今回笹沼さんは秋田さんと、ピアソラの《タンゴの歴史》より《カフエ1930・ナイトクラブ1960V》を、そしてニヤタリの《チェロとギターのためのソナタ》を演奏いただきました。チェロとギターのデュオも、クロマティックハーモニカとは違った雰囲気ですがとても相性がよく、ピアソラや、なかなか聴くことのできないニヤタリの曲を聴衆の皆様は堪能されたのではと思います。

第3部は菊地知也さんと、笹沼樹さんのチェロ・デュオで、バリエールの《2本のチェロの為のソナタ》長調より第1・3楽章と、ポツパーの《組曲 Op16》より第1・3・5楽章、パガニーニの《モーゼ幻想曲》を演奏して下さり、チェロ・デュオ王道の曲たちに皆様もお楽しみになられたのではと思います。

チェロでひとつになるコンサート

翌日は、若手チェリストによる無伴奏作品の演奏からスタートしました。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学、同大学院を修了し、卒業時及び、大学院修了時にアカンサス賞を受賞。数々のコンクールにて上位入賞を果たし、2022年より東京都交響楽団チェロ奏者になられた山本大さんは、シュューベルト/コスマンの《魔王》と、ピアッツィの《パチーニの歌劇「ニオペ」の主題によるカプリッチョ》を、全日本学生音楽コンクール全国大会第1位をはじめ、数々のコンクールに優勝、上位入賞を果たされ、現在東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程に在学中の松蔭ひかりさんは、黛敏郎の《文楽》を演奏されました。



第2部 笹沼 樹 (Cello)、秋田 勇魚 (Guitar)

第1部 和谷 泰扶 (Chromatic harmonica)、菊地 知也 (Cello) 2

様々なコンクールで優勝・上位入賞を果たされ、既に演奏会もこなしているふたりは、堂々とした演奏を披露し、今後の活躍を期待させました。

後半は「チェロの日」のメインとも言える、「チェリストの集い」参加者約54名によるチェロ・オーケストラの演奏でした。おなじみのヴィラ・ロボスの『ブラジル風パッサロ』をはじめ、今回は例年のチェロの日より少し早い新春の開催という事で、シユトラウスの曲等、新年に相応しい、明るい雰囲気曲目だったかと思えます。アンコールも指揮者山本さんの小太鼓から始まる、ラデツキー行進曲の演奏で、コンサート名同様、聴衆の皆様とも、奏者の皆様とも「チェロでひとつになる」コンサートになりました。

第13回が終わると、次は第14回にむけてとなりますが、次回のチェロの日は一度お休みになり、『アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS 2025』の開催を計画中です。5年に1度の祭典、より多くのチェリストの皆様と楽しむことが出来れば幸いです。



P-092 山本大

皆様、こんにちは！第13回チェロの日に出演させて頂いた、チェリストの山本大と申します。私は今回「歌とチェロ」をテーマに選曲しました。チェロの音色はよく

「人の声に近い楽器」と言われますが、歌曲やオペラをチェロで演奏したらまた違った魅力を引き出せるのではないか、と思ったためです。シユベルトの様々な歌曲を聞いて



みたり、イタリアンオペラのアリアを聴く等、いつもとは違った観点から曲を作ることが出来たのは、とても良い経験になりました。

【チェロの日】は私にとって高校生の頃憧れた舞台の1つであり、素敵なホールで素晴らしいお客様に聴いて頂けた事は本当に幸せでした。後半のチェロオーケストラでの特別な空間も、痺れるものがありました。

今後も沢山の音楽と向き合い、少しでも音楽の本質に辿り着けるよう精進していきます。第13回チェロの日に、尽力頂きました全ての方々に御礼申し上げます。



S-266 松蔭 ひかり

第13回チェロの日の「チェロでひとつになるコンサート」にて第一部では黛敏郎さんの文楽を演奏させて頂いた、第二部では全国のチェロを愛するチェリストの皆様

とアンサンブル演奏させて頂きました。サントリーホールは私にとって憧れのホールであり、初めてソロ演奏させて頂いたことを大変光栄に思いました。また初めてお会いした全国各地の皆様と練習を重ねるうちに絆が生まれ、本番ではその名の通り、会場の皆さまともチェロでひとつになるコンサートになりました。チェロの日開催の趣旨である「チェロを通じて人と人とが響き合う社会」とは、チェロの和やかで温かな音の響きは人々の心に優しく響き、寄り添い、豊かで思いやりの心を育む力になるという意味ではないかと思えます。この度多くのチェリストの皆さま



まと共演し、チェロの豊かで温かみのある音に私自身幸福感に包まれました。改めてチェロの持つ大きな可能性を思い、これからは心豊かな社会を願いつつ、丁寧に演奏活動をしていきたいと思えました。この度は大変貴重な経験をさせて頂きました。誠にありがとうございました。

チェロ・ゼミナール

P-225 林 裕 (ゼミナール講師)



科研究費での研究【チェロの力学】を、会員の皆様にも、ガンバ奏法↓エンドピン(以下EP)の発明↓トルトゥリエEP↓2回曲がったイナズマEPの歴史の変容とメリットデメリットについて解説しました。良い音を出す動作は、毛と弦の摩擦によって楽器を回転させる動きを発生させてしまいません。チェロを支える苦勞や不安定さを、EPの形状やペザンテという錘を使う事で補う事ができる事と、右手の重みが弦へ伝わりやすくする弓の形状を考えた、自作の弓も試演して頂きました。体現した5名の会員の方からは、「低弦での安定感と響きの増幅に驚きました」と言うご意見や、山崎伸子先生から弓について「弓先まで変わらず使えて楽に音が

が出る、良く考えたね」と言ってくれた、短い時間でしたが、30年以上かけてチェロから良い音を奏でる為のアイデアを、皆様と共有できた幸せな時間になりました。まだ具現化できていないアイデアがありますので、今後も研究していきたいと思えます。



が出る、良く考えたね」と言ってくれた、短い時間でしたが、30年以上かけてチェロから良い音を奏でる為のアイデアを、皆様と共有できた幸せな時間になりました。まだ具現化できていないアイデアがありますので、今後も研究していきたいと思えます。

チェロ・オーケストラ (第2部) 演奏曲

指揮：山本 祐ノ介

A.カラス (石島 栄一 編曲)：カフェ・モーツァルト・ワルツ

H.ヴィラ＝ロボス：ブラジル風パッサ 第1番

坂本 龍一 (石島 栄一 編曲)：Energy Flow

E.バーンスタイン (石島 栄一 編曲)：大脱走のマーチ

E.モリコーネ (石島 栄一 編曲)：ニュー・シネマ・パラダイス

J.シュトラウスII世 (山本 祐ノ介 編曲)：美しき青きドナウ

J.シュトラウスII世 (山本 祐ノ介 編曲)：雷鳴と稲妻

<アンコール>

J.シュトラウスI世：ラデツキー行進曲



第3部 笹沼 樹、菊地 知也 (Cello)

Master Class
11月
Antonio Meneses
アントニオ・メネセス
公開マスタークラス

開催日：2023年11月13日（月）
会場：サントリーホール ブルーローズ（東京都港区）
講師：アントニオ・メネセス 通訳：中木 健二
受講生：3名 伴奏者：3名
来場者数：会員53名、非会員50名、関係者6名

Photo：© 池上 直哉

S-244 河田 実聖

ピアノ：佐藤 勝重

このたびは、アントニオ・メネセス先生チェロ公開マスタークラスを受講させていただき、本当にありがとうございました。

海外の先生にご指導いただく公開レッスンは初めてだったので、緊張してステージに上がりました。しかしメネセス先生はユーモアを交えながらわかりやすくご指導くださり、またそれを的確に伝えてくださった中木先生のおかげで、リラックスして受講することができました。先生方のあたたかなお心遣いに心から感謝しております。

受講曲は2曲で、フォーレ作曲の蝶々からご指導いただきました。早いフレーズは褒めていただきましたが、歌うときのフレーズをもっと長くとして自由に演奏するように、とアドバイスをいただき、悪い癖である照れを捨て、それまでの10倍自由に歌うように心がけました。

もう1曲はJ.S.バッハ作曲のヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ第3番より第3楽章です。以前からメネセス先生のバッハの演奏が好きだったので、とても楽しみにしていました。なかでも特に印象に残っているのは、ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタにも舞曲の要素があることで、とても新鮮な発見でした。無伴奏チェロ組曲と同じように舞曲の雰囲気を感じて弾くことで、いきいきとした演奏になったと思います。また、わからなくなってしまうことも、今後活かせる忘れられないご指導でした。これまでこの曲を、モダン・チェロの弾き方で演奏するか、バロック的な演奏法を活かすべきかで悩んでいましたが、このレッスンで迷いなく、ヴィオラ・ダ・ガンバの演奏法に方向性を定めることができました。

実はこの2曲は全日本学生音楽コンクール全国大会の課題曲で、ご指導いただいたおかげで第1位をいただくことができました。

マスタークラスの最後には音階もご指導くださり、重音スケールの秘訣も教えていただけて、とても充実した内容でした。

最後になりましたが、このような素晴らしいマスタークラスを開催し、参加する機会をくださったチェロ協会の皆さまに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

Day 1



1日目の演奏会後に、指揮者山本さんをはじめとして、先生方、コンサート出演者の皆様、集い参加者の皆様と共に懇親会を行いました。

Day 2



2日目のチェロ・オーケストラのリハーサル後に、各パートごとトップのチェリストを中心に、パートミーティングを行いました。

VOICE

R-649 土屋 耕一

今回「チェリストの集い」に初参加！募集要項によると、公式練習は12月の一日練習と本番直前のリハーサル、ゲネプロの3回。その回数で仕上げられるだろうかと不安を持ちながらも応募しました。自主練習日程（6回）と第一希望の低音パート（8/8 part 4/4 part）の連絡が来たときには、ホッとしました。

ドキドキしながら1回目の自主練習へ。そこへ指揮の山本先生がサプライズ登場。曲想の方向性を示してください、その後の練習の助けになりました。全ての練習とその後反省会に出席し、仲間を増やせて良かったです。本番直前にプロの方々を交えてパートごとにミーティングがあり、4/4 partは、堀先生と菊地先生から演奏のコツを伝授していただき、パートの結束が一段と高まったような感じがしました。本番ではプロの方々と一緒に演奏ができてとても興奮しました。その後の自主的な打ち上げ会でもさらに満喫しました。次回もきっと参加します。



S-210 滝川 桃可

ピアノ：松本 望

この度は、アントニオ・メネセス先生のマスタークラスを受講させていただき、大変感謝しております。憧れのメネセス先生の目の前で弾かせていただけることは、緊張と共に、嬉しさでいっぱい気持ちでした。

ベートーヴェン：ピアノとチェロのためのソナタ第3番第一楽章をレッスンしていただきました。チェロの旋律から始まるこの曲は、弾き始めのワンフレーズから自分の中でさまざまな解釈がありながらも、納得のいく表情をつくるのに苦戦していました。そこでメネセス先生は、音色のイメージを教えてくださいました上で、ワンフレーズの中でどのようにシェイプを描くのか音の方向性をアドバイスしてくださいました。実践してみると、音色まで自然とイメージに沿って変化し、ワンフレーズの中でも繊細に意識しつつ視野を広くいることの大切さを感じました。他のフレーズや他の曲でも、同じことを意識して練習してみようと思いました。

また、ソナタの醍醐味であるピアノとチェロの語り合いについて、お話してくださいました。ソナタはピアノとのデュオであるので、ピアノと同じモチーフでは、チェロもピアノの打鍵のように弾く必要があると教えていただきました。そのために、発音の仕方や弓の初速を工夫してみるとピアノとの関係性が表面に出てきて、更に楽しく弾けるようになりました。

メネセス先生が隣で弾いてくださるワンフレーズは、音色が生きているように意思があり、深く耳に届いてきて、私は思わず頬が緩んでしまいました。

また、例えてくださる表現やお言葉がユーモアに溢れていて、「その指使いは僕の真似ですね、それは僕だけの指使いですよ、2000円くれたら使ってもいいよ！」と、楽しい冗談で私やお客様を笑わせてくださいました。

メネセス先生からいただいた貴重な学びを活かして、楽譜から伝わる音楽を、聴いている方の耳や心の奥に深く届けられる演奏家になりたいです。

最後になりましたが、素敵なホールで、大変貴重な機会とたくさんのお心配りをくださった、チェロ協会の皆さまに心より感謝いたします。ありがとうございました。



PROFILE アントニオ・メネセス

アントニオ・ヤニグロに学び、ミュンヘン国際音楽コンクール、チャイコフスキー国際コンクールで優勝。世界の第一線で活躍を続けながら、ソフィア王妃高等音楽院やキンパーナ音楽院、ベルン音楽院で後進の指導も行う。

S-264 松谷 壮一郎

ピアノ：吉武 優

この度アントニオ・メネセス先生のマスタークラスを受講し、非常に印象に残っておりモットーとしている言葉があります。「goodな演奏家ではなくgreatな演奏家にならなくてはならない。そのためには自分自身の演奏に何かspecialなもの、individualなものが必要である。」という言葉です。

“special”で“individual”な何かを会得するにはどのようなアプローチが必要なのかについてマスタークラスではアドバイスを頂きました。アプローチとして取り掛かるべきことは、まず第一に記譜された音の他に強弱記号や楽語など、作曲家が特別に何かを書き足したことに注意を向けることで、それらを総合的に見て考えた結果、自分自身が「～のようにやりたい」と思ったことを「大げさ」にして表現してみることであり、「大げさ」にした上で「big bar」のような長いフレーズを意識することでフレーズが生き生きとし、楽曲のshapeを形どることができると仰っていました。

このようなことを探究し続けることで実際に演奏する側だけでなく、聴く側に対しても演奏に説得力を持たせることができると感じました。

演奏したチャイコフスキーの「ロココ風の主題による変奏曲」はマスタークラスの2週間後にオーケストラとの共演を予定していました。受講以前は表現に確固たる自信を持てずにいましたが、受講時のアドバイスを踏まえ取り組んだことにより何百人という聴衆、さらにはピアノ伴奏で演奏する何十倍の数のオーケストラの奏者にはっきりと自分自身の表現したい音楽を伝えることができたと思っております。

“great”な演奏家、つまり聴衆が演奏会中は自身の演奏にのめり込み、演奏会後も聴衆の記憶に残るような演奏家、表現者として大成できるよう日々励んでいきます。

最後になりますが、このような素晴らしく貴重なマスタークラスを開催いただき深く感謝申し上げます。



Cello Salon

チェロ・サロン
開催報告



参加者数
講師：1名／クリニック受講生：2名／アンサンブル参加者：23名／聴講：8名
合計36名（会員：29名・非会員：3名・スタッフ：4名）

ワンポイントクリニックを受講して

R-342 田中 渚

高木慶太先生の伸びやかで多彩な演奏表現を自分が少しでもできるようになりたいと思い、クリニックを受講しました。曲は表現力が求められるシューマンの幻想小曲集 作品73の1楽章と3楽章にしました。数日前に高木先生のソロコンサートを聴いていたので、より期待感が高まっていました。クリニックでは

- ・楽譜に書かれている曲の響きを明確にイメージしながらもっと幅広いレンジで音を作ること
- ・出す音の準備をもっと事前行うことなどを一貫して言われ、それらを1つずつ実際に弾いて下さいました。

目の前の先生の音色、演奏姿、息遣いを真似ていくことで少しずつ自分のものになっていく感覚がありました。次から次へと出される音の手札に必死についていこうとしていると、いつしか公開クリニックだったことを忘れていました。周りからみても白熱したクリニックだったようです。20分はあっという間でしたが、沢山なことを学べた充実の時間でした。高木先生、日本チェロ協会の皆様、本当にありがとうございました。

休憩を挟み、後半は、アンサンブル形態にて、フォーレの《パヴァーリス》、ガルドルの《首の差で》をご指導いただきました。高木先生からアドバイスをいただくことに、美しいハーモニーへと変化していくことを誰もが実感する時間となりました。ご指導の最後には講評をいただき、全員での記念撮影を終えた後、コロナ禍で数年間できなかった懇親会を実施いたしました。高木先生を囲みながら、参加者の皆様が再び歓談を楽しまれるようになったことを大変嬉しく感じております。改めて、貴重なお話が沢山詰まったサロンの開催を、誠にありがとうございました。

2023年12月3日(日)に、サントリーホールのリハーサル室で、高木慶太先生主宰の第47回チェロ・サロンを開催いたしました。高木先生は、桐朋学園大学、同大学院を経て、ロームミュージックファンデーションの奨学金を得てベルリン芸術大学に留学。2023年まで約12年間在籍した読売日本交響楽団を退団。2015年より2年間は同楽団のチェロ首席代行奏者を務め、現在はフリーランスとしてソロ活動や室内楽、国内の主要オーケストラ客演首席として多数出演されています。

前半は、2名の方が約20分ずつのチェロ・クリニックをご受講。岡村匡純さん(R520)は、ドヴォルザークの《チェロ協奏曲》、田中渚さん(R342)はシューマンの《幻想小曲集》より第1楽章・第3楽章の抜粋を課題曲にされました。受講生の演奏法における悩みに丁寧に沿いながら、短い時間の中で大変的確に分かりやすくご指導くださいました。

2024年2月27日(火)、国立埼玉病院の小児科病棟にて約4年ぶりとなるアウトリーチを実施いたしました。辻本玲さん、水野優也さん、瀬戸真愛さん、丸山悦未子さんの4名によるチェロ四重奏をお届けして参りました。会場の小児科プレイルーム演奏の前には、ご移動が難しいお子様に向けて病室前スペースでも演奏プログラムから2曲をご披露いただきました。曲目は、モーツァルト作曲「アヴェヴェルムコルプス」(1st辻本さん)、ブラームス作曲「ハンガリアンダンスNo.5」(1st丸山さん)、ジョプリン作曲「エンターテイナー」(1st瀬戸さん)、ポツパー作曲「演奏会用ポロネーズOp.14」(1st水野さん)、アンコールには久石譲作曲「さんぽ」を演奏いただきました。各曲の演奏前に、1st奏者から曲目のご紹介をいただき、小さなお子様から保護者、医療関係者の皆様が音楽を楽しみ、感動を共有できる和やかに充実した時間となりました。コロナ禍によりアウトリーチ実施が難しい状況が続いておりましたが、ご協力いただきました国立埼玉病院様、ご出演者4名様に心より感謝申し上げます。

アウトリーチ実施報告



アウトリーチ実施報告
日時：2024年2月27日(火)
実施場所：国立埼玉病院(埼玉県和光市)
参加者：水野 優也、瀬戸 真愛、丸山 悦未子、辻本 玲(Vc)



2024年2月27日、辻本玲さん、水野優也さん、丸山悦未子さん、そして私、瀬戸真愛の4人は、国立病院機構埼玉病院・こども医療センターにてチェロカルテットのコンサートを行いました。プレイルームに加え、そこに来ることが困難な子ども達の耳にも届くよう、病室前でも演奏いたしました。親御さんやたくさんの医療従事者の方々も演奏に耳を傾けてくださいました。エンドピンからも伝わるチェロの音色が聴こえたのか、途中で病室から出てきてくれた子ども達もいて、演奏後には小さな手から大きな拍手を送ってくれました。キラキラした笑顔を向けてくれたり、ハイタッチをしてくれたりする子ども達には私たちが元気をもらい、「届けに行ける」音楽の喜びを感じました。今回聴いてくださった方々と、いつか病院の外で、また音楽と一緒に楽しめる日が来ることを願っています。入院生活を送る子ども達に音楽を届けることは、何度か入院経験のある私にとって長年の夢でもありましたので、今回、素晴らしいチェリストと共に活動に参加できたこと、大変嬉しく思います。このような機会をくださったチェロ協会の皆様とあたたかく迎えてくださった病院の方々に、深く感謝いたします。

S-255

瀬戸 真愛

2024年2月27日、辻本玲さん、水野優也さん、丸山悦未子さん、そして私、瀬戸真愛の4人は、国立病院機構埼玉病院・こども医療センターにてチェロカルテットのコンサートを行いました。プレイルームに加え、そこに来ることが困難な子ども達の耳にも届くよう、病室前でも演奏いたしました。親御さんやたくさんの医療従事者の方々も演奏に耳を傾けてくださいました。エンドピンからも伝わるチェロの音色が聴こえたのか、途中で病室から出てきてくれた子ども達もいて、演奏後には小さな手から大きな拍手を送ってくれました。キラキラした笑顔を向けてくれたり、ハイタッチをしてくれたりする子ども達には私たちが元気をもらい、「届けに行ける」音楽の喜びを感じました。今回聴いてくださった方々と、いつか病院の外で、また音楽と一緒に楽しめる日が来ることを願っています。入院生活を送る子ども達に音楽を届けることは、何度か入院経験のある私にとって長年の夢でもありましたので、今回、素晴らしいチェリストと共に活動に参加できたこと、大変嬉しく思います。このような機会をくださったチェロ協会の皆様とあたたかく迎えてくださった病院の方々に、深く感謝いたします。

Cellists Update



©平舘平

R-273 Keita TAKAGI

高木 慶太 さん

1. 近況を教えてください

昨年、長年務めていたオーケストラを退団し、今はフリーランスとして、ソロやアンサンブル、ゲストでのオーケストラ出演などを中心に活動しています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

両親ともに楽器を演奏しており、特に母がピアノ講師だったので、その影響を受け、3歳からピアノを、そして6歳からチェロを始めることになりました。チェロ自体は両親に勧められて出会いましたが、習っているうちに自分でもとても好きになっていったのを感じています。

3. 今後の予定は？

この4月より、桐朋学園大学の非常勤講師を勤めることになりました。近況にある、フリーの奏者としてもですが、今後は後進の育成にも力を入れていきたいと思っています。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

わりとインドア派なので、休みの日にはゲームをしたり、猫が家に2匹いるのですが、猫たちと戯れる時間が大好きです。

5. 先日チェロサロンの講師をお努めいただき、ありがとうございました。ご感想をお聞かせいただけますか？

講師をやらせていただいて、僕自身もとても楽しかったです。少しの投げかけで、皆様の音がどんどん良くなっていくのを間近で感じる事が出来、参加者の熱意やチェロに対する思いに圧倒されました。



S-251 Emiko MARUYAMA

丸山 悦未子さん

1. 近況を教えてください

昨年東京藝術大学に入学し、この春2年生になりました。大学では、ソロ以外にも室内楽や弦楽合奏などのアンサンブルに取り組む機会が多く、同級生や先輩方から刺激を受けています。また、高校生の時から師事していた河野文昭先生が3月で藝大をご退任されたため、新しく向山佳絵子先生のもとでチェロを学んでいます。河野先生のご退任はとても寂しいですが、新たな出会いにも感謝しています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

もともと姉の影響でヴァイオリンを習っていたのですが、色々な楽器の音色を知っていくうちにチェロが大好きになりました。チェロは低音も魅力的ですが、当時の私はチェロの高音に惚れ、チェロを弾いてみたいという思いが溢れていました。両親や先生方と相談し、小学5年生からチェロを始めました。

6. プロのチェリストを目指している学生や、若いチェリストに伝えたいこと・望むことはありますか？

プロを目指すにあたっては、まずチェロを弾くことが好きかを再確認してほしいです。好きだからこそ、練習もとことん集中して行うことができ、どんどん上達もしていくと僕は思います。そして、ただ上手に弾けるだけではなく、次のステップとして、自分自身の「音」を見つけてほしいです。僕の師匠の音を聴くと、本当に1音1音命を削って紡ぎだしているのを感じ取ることができ、僕自身も目指しているところではありますが、若い皆さまもぜひ、動画で見るプロの演奏のコピー、ではなく、自分自身の音と思いをもって演奏してほしいです。

Upcoming Events

東京チェロアンサンブル～15th ANNIVERSARY～

日時／2024年5月12日(日) 14:00開演(13:30開場)

会場／東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル

料金／【全席指定】一般5000円 学生2000円 A席(見切れ席)3500円

出演／荒井結 清水詩織 高木慶太 中実穂 新倉瞳

堀沙也香 三宅依子 宮坂拓志 宮田大 横山桂

問／Mitt TEL 03-6265-3201

チケット／<https://l-tike.com/tokyocello/>



l-tike.comへ

3. チェロ以外に好きなことはありますか？

クラシックバレエが好きです。音楽に合わせて踊ることはとても楽しいですし、思い切り体を動かすと体も心もすっきりとします。年に数回のバレエ鑑賞は、まるで夢の中に入り込んでいるようで、とても幸せな時間です。

また、お裁縫も好きで、いつか演奏会で着る衣装を自分で手作りが夢です。

4. 今年の「チェリストの集い」にご参加いただき、ありがとうございました。ご感想をお聞かせいただけますか？

素敵な演奏会に参加させて頂き、有難うございました。チェロオーケストラに参加できる機会はなかなかありませんし、素晴らしい先生方やチェロを愛するアマチュアチェリストの方々と共に演奏させて頂いたことで、チェロの魅力をより感じる事が出来ました。

5. 先日の「アウトリーチ活動」の演奏にもご出演いただき、ありがとうございました。ご感想をお聞かせいただけますか？

辻本玲さん、水野優也さんという素晴らしいチェリストのお二人と、幼馴染の瀬戸真愛さんと共に演奏させて頂き本当に幸せな時間でした。合わせ練習の時から沢山のアドバイスを頂き、大変勉強になりました。

また、私はもともとアウトリーチ活動のように普段クラシックコンサートを聴きに行く機会のない人々の前で演奏することに興味がありました。高齢者施設等で何度か演奏した事がありましたが、病院は初めてでした。今回は小児科病棟で演奏し、子どもたちがとても熱心に私たちの演奏を聴いてくれたため、少しでも笑顔や希望を届けられていたら幸いです。

6. 今後、どのようなチェリストになりたいですか？

おこがましいようですが、チェロの魅力をより多くの人に伝えられるようなチェリストになりたいです。また、その曲の世界観をお客様と共有できるような演奏が出来るとなりたいです。



ラフマニノフ考
—チェロ奏者から見たその音楽像—
恵雅堂出版(株) 2023年11月3日発売
*単行本 160ページ 2,500円+税
*ISBN 978-4-87430-052-7

『ラフマニノフ考』上梓に寄せて
去年は私が最も敬愛する作曲家セルゲイ・ラフマニノフの生誕150周年でしたが、それを記念して、私のこれまでのラフマニノフ研究をまとめた本を出版させていただきました。
ラフマニノフは未だに「ピアノの作曲家」として認識されていますが、私はラフマニノフの本質は「歌」の追求」によってこそ見えてくるものと信じています。
『ラフマニノフ考』では歌曲、合唱曲、そして滅多に上演されない歌劇にスポットライトを当て、一般的な研究とは違う角度からラフマニノフの音楽像を紐解きます。加えて全ての室内楽作品にもフォーカスし、特に『チェロ・ソナタ』については、ラフマニノフが語った言葉や作品に込められた情景をはじめとした、これまでどこにも書かれたことのない秘話を含めた詳しい解説を載せています。また、厳選された器楽演奏に適した歌曲作品(合唱曲、歌劇も含む)には「演奏の手引」も添えました。音楽を愛するすべての方、そしてチェロを愛奏、愛聴するすべての方に読んでいただきたいと思います。

WELCOME

2023年度 新規入会者のご紹介 (ご入会順)
今年度は、新たに33名に加わっていただきました。

正会員 23名

大栗 佳奈 さん	今川 みどりさん	磯貝 陽子 さん
小柳 明子 さん	塩手 康弘 さん	島根 朋史 さん
神田 栄三郎さん	山口 隆史 さん	向後 由美 さん
斎藤 範夫 さん	鈴木 みえ さん	堤内 ちふみさん
和泉 景子 さん	Peter SZABOさん	渡邊 喜代恵さん
宮原 勅治 さん	Ildiko SZABOさん	内藤 徳子 さん
磯部 朱美子さん	牧 真也 さん	竹内 恵子 さん
任 久美 さん	吉川 真未 さん	

学生会員 10名

進野 由記 さん	山下 凱冬 さん
井上 帆乃香さん	森 朝美 さん
山下 有弥 さん	松谷 壮一郎さん
鈴木 裕達 さん	塚田 紗弥 さん
貫井 祐久 さん	松蔭 ひかりさん

事務局からのお知らせ

2024年度主催イベントのご案内

■チェロ・サロン

日時：2024年5月18日(土) 18時開講
会場：サントリーホール リハーサル室
講師：中実穂
聴講申込締切：5月10日(金)

■第8回ジュニア・チェロ・キャンプ

日時：2024年8月27日(火)、28日(水)
会場：桐朋学園大学(調布キャンパス)
講師：堤剛、中島颯、堀了介、山崎伸子
蒯田雅治、河野文昭、西谷牧人、山本裕康、他
受講応募締切：6月27日(木) 12:00必着

■アジア・パシフィック・チェロコンGRESS2025

日時：2025年2月14日(金)～16日(日)
会場：サントリーホール 大ホール・ブルーローズ等

※公演詳細については、決まり次第ホームページにてご案内いたします

堤剛、ヤン・ソンウォンが師に捧げる渾身のオマージュ ヤーノシュ・シュタルケル

生誕100周年チェロ・フェスティバル **ソウル&東京 共同開催**



偉大なるチェリスト、世界的教育者であったヤーノシュ・シュタルケル氏の生誕100周年を記念し、縁のあったチェリスト、ピアニストによるオマージュ公演です。

2024年

【公演1】7月5日(金) 19時30分開演
『ブラームスソナタの夕べ』
【公演2】7月6日(土) 18時開演
『ソナタ&アンサンブル』
【公演3】7月7日(日) 14時開演
『6人のバッハの世界』

会場：全て、サントリーホール
ブルーローズ(小ホール)

チケット発売：5月7日(火)

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

チェリストを探す



公演情報



一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第63号 2024年4月24日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤剛
編集 日本チェロ協会事務局
編集協力 株式会社アイデアリズム